

概要や要点をとらえて聞く力を高める高等学校外国語科学習指導の工夫 — 背景知識と聞き取った情報との関係性をマップにする活動を通して —

広島県立加計高等学校 松本 崇弘

研究の要約

本研究は、文部科学省及び広島県の調査から、まとまりのある文章を聞いてその概要や要点を把握することに課題があることが明らかになったことを踏まえ、概要や要点をとらえて聞く力を高める学習指導の工夫について考察したものである。文献研究から、本研究における「概要や要点をとらえて聞く力」を、文章に即して場面をとらえながら登場人物の言動を聞き取る力であると考えた。この力を高めるために、本研究では、背景知識を活性化させて得た情報と聞き取った情報との関係性をマップにする活動を行った。その結果、マップ上の情報間との関係性を明らかにした上で、概要や要点をとらえて自分の言葉でまとめることができる生徒が増えた。したがって、背景知識と聞き取った情報との関係性をマップにする活動は、概要や要点をとらえて聞く力を高めることにおおむね有効であるといえる。

キーワード：概要や要点をとらえる

I 研究の目的

平成24年度「外部検定試験の活用による英語力の検証」報告書によると、調査対象の高等学校第3学年における生徒のリスニングについて、まとまりのある文章を聞いてその概要や要点を把握することに課題があることが明らかになった。平成24年度広島県共通学力テストの結果から、所属校生徒も同じ課題をもっていることが分かった。これらの課題の原因として、生徒が断片的に聞こえた語句だけに基いて内容全体を推測していることが挙げられている。それに加え、聞く文章について生徒がもつ背景知識と聞き取った情報とを関係付ける指導が不十分であったことも原因であると考えられる。

そこで、本研究においては、物語を聞く活動で、生徒がもつ背景知識を活性化させ、それと聞き取った情報との関係性をマップにする手法を用いる。あらかじめ、これから聞く文章に関する情報から背景知識を活性化させて、その文章に関わる語句を推測させマップに記入させる。それから、それらの語句を聞き取った情報で検証し、補足、修正を加える。推測した語句と聞き取った情報とを関係付けられるようになれば、まとまりのある文章の概要や要点をとらえて聞く力を高めることができると考え、本研究においては、物語の聞き取りを通して、その有効性を検証することを目的とする。

II 研究の基本的な考え方

1 概要や要点をとらえて聞く力とは

聞くことにおける概要や要点について、高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編（平成22年、以下「解説」とする。）では、「おおよその内容や全体的な流れ、必要不可欠な情報、話し手の主な考えなどの聞き落としとしてはならない重要なポイントのことである。」¹⁾と述べられている。

また、岡部幸枝・松本茂（2010）は、物語において、話の背景、登場人物とその性格、5W1Hなどを押さえながらとらえることが重要であると述べている。

これらのことから、物語における概要や要点はおおよその内容や全体的な流れ、場面、登場人物の言動ととらえることができ、それらを理解することが概要や要点をとらえることにつながると考える。

以上のことから、本研究において、概要や要点をとらえて聞く力とは、文章に即して場面をとらえながら登場人物の言動を聞き取ることとする。

2 背景知識と聞き取った情報との関係性をマップにする活動について

(1) 背景知識とは

背景知識について、「改訂版英語教育用語辞典」では、文章の内容を理解するために個人的に前もって知っている知識や世界や社会についての一般的知識、常識などの総称であると定義し、心理学用語であるスキーマと同義であると示されている。また、

「解説」では、学校や家庭で得た情報や考え、学んだり経験したりしたことが背景知識であると述べられている。

これらのことから、背景知識とは、文章を理解するために利用する、学校や家庭で得た世界や社会についての知識や経験といえる。

物語を理解するのに必要な背景知識について、天満美智子（1989）は、表1に示す2種類を挙げている。

表1 物語を理解するための背景知識

①構造に関する背景知識 (formal schema)	<ul style="list-style-type: none">・簡単な物語がもつ典型的な構造・状況あるいは、場面とエピソードから構成される。<ul style="list-style-type: none">－状況…登場人物とその置かれた状況、場面、時－エピソード…事件の発生、内的反応、試み、結果、外的反応
②内容に関する背景知識 (content schema)	<ul style="list-style-type: none">・文章に示される事物、出来事、状況などについて聞き手のもつ既存の知識構造

一つ目の種類は、構造に関する背景知識であり、簡単な物語がもつ典型的な構造のことを指す。主に状況とエピソードで構成される。一つ目の状況とは、登場人物の置かれた状況、場面、時などを示している。二つ目のエピソードは、事件の発生、内的反応、試み、結果、外的反応の順に構成されており、各要素は相互に結び合い、時には更にその下位に埋め込まれるといった階層構造をなしていく。もう一つの種類は、内容に関する背景知識である。これは、事物、出来事、状況など話された内容の事柄に関して聞き手が前もってもっている知識のことを指しており、天満（1989）は、文化的、社会的知識をもつことが文章の理解に必要であると述べている。

これらのことから、聞く活動においては、流れてくる音声を聞き取って理解しなければならないので、あらかじめ話の構成に関する知識や話の内容についての知識があれば話の全体像がイメージでき、内容の理解の手助けとなると考えられる。

以上のことから、本研究における背景知識とは、物語の構造に関する知識と、物語の内容に関する知識とする。

(2) 物語の内容に関する背景知識の活性化について

文章を理解することについて、「改訂版英語教育用語辞典」では、「学習者が特定のテキストを理解できない場合、それは必ずしも言語能力の低さを示すわけではなく、その学習者がテキストの内容に関

する背景知識を持っていない可能性がある。」²⁾と述べ、学習者が文章を理解するためには、内容に関する背景知識をもつ必要があることを示している。

聞き手に必要な背景知識を与えることについて、西田正（1984）は、文章を聞く前に絵による視覚的手がかりを与えた外国語学習の聞く活動に関するミュラー（1980）の実験を紹介している。その中でミュラー（1980）は、外国語の学力の低い集団に聞く前に絵を与えることで、内容の要約に効果があったことを報告している。その理由として、絵による視覚的手がかりが、学習者の記憶に蓄えられた関連要素を活発にし、かつ前もって全体の文脈を見渡す助けとなり、誤った推測を防いだことを挙げている。

中森誉之（2010）は、文章に関連した写真、絵、記事などの具体物がある場合は、文章を聞く前に、場面における設定や出来事、動作を推測させておくことが内容理解に有効であると述べている。

これらのことから、文章に関連した絵を聞く前に提示すれば、聞き手は内容についての背景知識が与えられることになる。そして、これらの背景知識を活性化することによって、聞き手は、前もって全体の文脈を見渡し、場面における設定や出来事、動作を推測することができるようになると考えられる。

以上のことから、本研究においては、文章を聞く前に、文章に関連した絵を提示し、そこから得た背景知識を活性化させて、場面における設定や出来事、動作を推測させる。

(3) 文章を聞く活動について

言語理解の過程について、中森誉之（2009）は、トップダウン処理とボトムアップ処理の2種類があると述べている。トップダウン処理とは、「内容についての背景知識を活性化させて、場面や文脈の推測を積極的に行い、全体を把握しながら細部を理解していく」³⁾処理であると述べ、ボトムアップ処理とは、「単語、品詞や句、節レベル、文、段落へと小さな要素や部分を組み上げていく。分析的に細部をまとめていくことで全体を理解する処理方法である。」⁴⁾と定義している。

聞く活動について、樋口晶彦（1997）は、聞き手は決して音声の要素だけに頼っているわけではなく、聞き手のもつ背景知識を活性化させ能動的に聞く活動に取り組んでいるとして、トップダウン処理、ボトムアップ処理の相互作用が的確に行われることによって音声の内容を再構築できると述べている。

これらのことから、文章を聞く活動とは、トップダウン処理によってあらかじめ聞く話の内容につい

て背景知識を活性化させ推測した情報と、ボトムアップ処理によって聞き取った情報とを関係付けていく活動ととらえる。

(4) マップについて

マップ一般について、塚田泰彦（2005）は、知識や考えを拡充したり整理したりするために、語句を線で結んで、蜘蛛の巣状に張りめぐらせたかたちで書かれたものと述べている。

マップは学習活動に応じて様々な種類のものが研究されている。背景知識を活性化させる手段として、塚田（2005）は意味マップを紹介し、具体例として、図1①に示す群生式マップを挙げている。これは、あるトピックをいくつかのカテゴリーに分け、更にそこから情報を細分化する過程で学習者の既知の知識や経験を活性化するのに適している。

文章全体の流れを把握する手段として、米崎里（2008）は構造マップを紹介し、文章中から抜き出したキーワードを図式化することで、文章の構造や全体の概要把握に役立つと述べている。

聞く活動において、情報は音声として時間軸に沿って次々と与えられる。そのため、その流れに沿って情報を書き留めることが文章全体の流れを把握し、概要や要点をとらえることにつながる。したがって、米崎（2008）が構造マップの例として挙げている図1②に示す枝分かれ式マップの中央の線を時間軸として、聞き取った情報を時間の流れに沿って記入することが、文章全体の流れを把握し、概要や要点をとらえることに有効であると考えられる。

本研究では、絵から背景知識を活性化させて推測した情報を聞き取った情報で検証しながら物語の全体の流れを把握するため、群生式マップと枝分かれ式マップの機能を組み合わせた図1③に示す組み合わせ式マップを使用する。

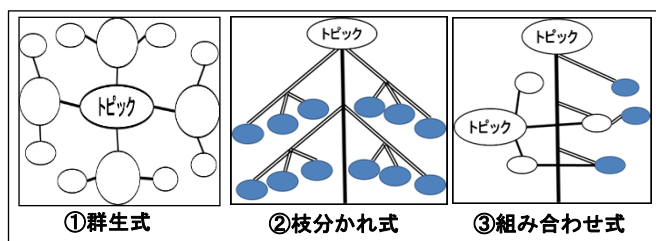


図1 マップの種類

(5) 背景知識と聞き取った情報との関係性をマップにする活動の有効性について

聴解における文章理解について、福田倫子（2002）は、人間は一つの刺激に長時間持続的に神経を集中

することは困難であり、聞き手は耳に入った音声を全て理解しているのではなく、内容についての推測を実際の音声と照合し、検証することで意味を理解している、という門田修平（2002）の意見を紹介している。

このことから、背景知識と聞き取った情報との関係性をマップにする活動を行えば、トップダウン処理で背景知識を活性化させ推測した語句を、ボトムアップ処理で時間の流れに沿って聞き取った情報で視覚的に検証することができるため、文章全体の把握に役立つと考える。

以上のことから、背景知識と聞き取った情報の関係性をマップにする活動を行うことが、文章の概要や要点をとらえて聞く力を高めることに有効であると考えられる。

(6) 概要や要点をとらえて聞く活動について

効果的に聞く活動を行うことについて、久保田章（2010）は、「生徒自身が、自分の聞き取りの過程を振り返ることが出来るよう、個々の課題の目標を明確にする」⁵⁾ことと、「課題に小さなステップ（small steps）を設けて、生徒に達成感、成就感をもたせる」⁶⁾必要性を述べている。また、中森（2010）は、「外国語での聴解は、学習者は全てを隅々まで聞き取ろうとする傾向があるため、情報の取捨選択や補填方法などの『聴き方』を指導する。」⁷⁾と述べている。

これらのことから、背景知識と聞き取った情報の関係性をマップにする活動は、目的別の聞き取りを通して行われるべきであると考えられる。

まとめる活動について、中森（2010）は、聞いた内容を自分の言葉で表出する活動を推奨し、こうした活動を、初級段階では日本語で行い、中級段階以降は英語の比率を増やすことが必要であると述べている。本研究におけるまとめる活動では、所属校の生徒実態に即して、日本語でまとめさせる。

以上のことから、本研究においては、概要や要点をとらえて聞くために、次の三つの活動を通して行う。まず、背景知識を活性化させる活動、次に、目的別の聞き取りを通して、マップ中の情報を関係付ける活動、最後に、自分の言葉で概要や要点をまとめる活動である。

(7) 背景知識と聞き取った情報との関係性をマップにすることを通して概要や要点をとらえる活動の具体

概要や要点をとらえて聞く活動は、背景知識と聞き取った情報との関係性を図2左側に示すワークシ

ート上でマップにする活動を通して行う。このワークシートは、図2右側にその相関を示すとおり物語の構造に関する背景知識を反映できるように作成されている。上から順に①は、絵が示す場面における時と場所、登場人物を記入する部分である。②は物語の場面を表す絵から内容に関する背景知識を活性化させて推測した語句を書き込む部分である。絵から推測した語句について、登場人物の言動に関してはワークシートの右側に記入し、それ以外はワークシートの左側に記入する。③は、登場人物の言動を中心に、出来事を時間の流れに沿って記入する部分である。

概要や要点をとらえて聞く活動の具体を、以下のア、イ、ウに示す。

ア 聞く文章について背景知識を活性化させる活動 (pre-listening) について

文章を聞く前に、物語を理解するのに必要な2種類の背景知識の活性化を行う。

第一に、物語の構造に関する背景知識を活性化する。事前に、図2右側に示す物語の典型的な構造図を基に、聞き手はこれから聞く文章について時間軸に沿ってどのような情報を聞き取ればよいのかを把握する。

第二に、物語の内容に関する背景知識を活性化する。文章に関連した絵から得た背景知識を活性化して内容の推測をする活動を行う。まず、場面を表す場所や時について、推測が可能なものはワークシートの①の欄に記入する。次に、登場人物の言動や状態、絵の中の事物を中心に、それらに関係する語句を推測してワークシートの②の欄に記入する。

イ マップの中の情報を関係付ける活動 (while-listening) について

次に、文章を聞きながらマップの中の情報を関係付ける活動を行う。

本研究においては、文章の聞き取りを目的別に3回行う。

1回目は、あらかじめ推測して書き込んだ語句を検証する目的で行う。場面を表す場所と時及び登場人物とその言動について聞き取る。場面について聞き取った情報を推測した語句と比較し、それらに対して補足、修正を行う。

2回目は、登場人物の言動をマップに記入する目的で行う。その言動を聞き取り、登場人物別に時間軸に沿ってワークシートに記入する。推測してマップに書き込んだ登場人物の言動については、聞き取った情報で修正したり補足したりする。

3回目は、発展的な活動としてマップ上にある情報同士の因果関係を矢印で結ぶ目的で行う。特に、図2右側に示すように物語の場面における主な事件とその結果をつなぐ因果関係を把握する。

ウ まとめる活動 (post-listening) について

まとめる活動では、文章を聞き終わった後に、マップの情報を用いて自分の言葉でまとめさせる。

Ⅲ 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

背景知識と聞き取った情報との関係性をマップにする活動を行えば、概要や要点をとらえて聞く力が高まるだろう。

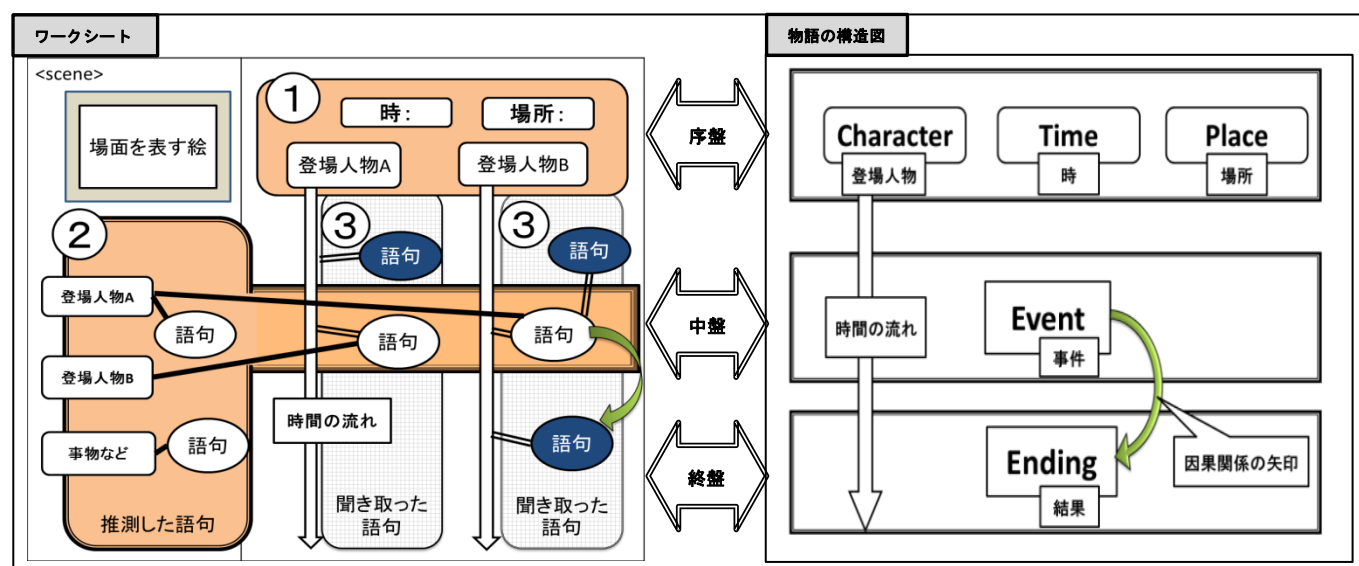


図2 ワークシートと物語の構造との相関

2 検証の視点と方法

検証の視点	検証の方法
概要や要点をとらえて聞く力を高めることができたか。	プレテスト ポストテスト ワークシート
背景知識と聞き取った情報との関係性をマップにする活動は文章の概要や要点をとらえて聞く力を高めることに有効であったか。	ワークシート アンケート

(1) プレテスト・ポストテスト

図3に示すプレテスト・ポストテストでは、100語程度の文章を聞いて問いに答える形式の筆記テストを実施した。問題1は、概要を日本語でまとめる問題である。問題2は文章の主題が理解できているかを問う問題である。

表2は、プレテスト・ポストテストの判断基準を示したものである。

(2) 事前アンケート・事後アンケート

生徒の英語学習における「聞くこと」に対する意識を把握するために、事前アンケート・事後アンケートを4段階評定尺度法で行った。

表2 プレテスト・ポストテストの判断基準

とらえて 概要や 要点を	A	文章に即して、複数の場面をとらえながら、登場人物の言動とその理由を聞き取ることができている。
	B	文章に即して、複数の場面をとらえながら、登場人物の言動を聞き取ることができている。
とらえて 概要や 要点を ない	C 1	文章に即して、一つ以上の場面をとらえているが、登場人物の言動は聞き取られていない。
	C 2	文章に即して、場面はとらえられていないが、登場人物の言動を聞き取ることができている。
	D	場面も登場人物の言動もとらえられていない。

プレテスト・ポストテスト

(A・B)コース、 番 氏名 []

放送を聞いて内容を日本語でまとめ、問いに答えなさい。

以下の2枚の絵は物語のある場面を示しています。これらを聞き取りの参考にしてください。なお放送中ではメモをとってもかまいません。

絵①

猫が高い木を見上げている絵

絵②

猫が鳥の巣の中の5羽のひなをのぞいている絵

<メモ>

問題1：聞き取った文章のあらすじを日本語でまとめ、解答欄に書きなさい。

解答欄

問題2：この文章のタイトルとして最も適切なものを次のア～エから選び、解答欄に書きなさい。

ア. The Cat and The big tree.
イ. The Cat and His big eyes.
ウ. The Cat and The five birds.
エ. The Cat and The blue sky.

登場人物と最も重要な関係をもつ対象を把握しているかについて確認する問題

解答欄

図3 プレテスト・ポストテスト

IV 研究授業

1 研究授業の内容

- 期 間 平成25年6月24日～平成25年7月17日
- 対 象 所属校第1学年（1学級22人）
- 単元名 物語の聞き取り
“The Lion and the Mouse”
（『イソップ童話』より）

○ 目 標

背景知識を活性化して推測した語句と聞き取った情報とを結び付けて物語の概要や要点を聞き取り、自分の言葉でまとめる。

2 指導計画（全5時間）

次	時	学習活動
一	1	○ ワークシートの使い方を理解する。
二	2	○ 聞く文章について背景知識を活性化させる。 ○ 物語を聞いて、動詞を中心に登場人物の言動を把握し、ワークシートにまとめる。
三	1	○ 物語を聞いて、複数の登場人物の言動を把握し、ワークシート上のマップを発展させる。 ○ 主題を日本語でまとめる。
四	1	○ 複数の場面から構成される物語を聞いて、ワークシート上のマップを発展させる。 ○ 概要や要点を日本語でまとめる。

3 授業の工夫

- 生徒がもつ背景知識の活性化を促し、物語の内容に関して適切な推測ができるように、生徒に提示する絵を加工した。
- 生徒の実態に即した聴解素材となるように、使用されている語彙や文法、一文の長さを調整した。また、概要や要点をとらえる活動を行うので、時間の流れに沿って展開する構成がはっきりした素材を選んだ。

V 研究授業の分析と考察

1 概要や要点をとらえて聞く力を高めることができたか

(1) プレテスト・ポストテストによる分析

概要や要点をとらえて聞いているかを検証するために実施したプレテスト・ポストテストの結果を図4に示す。

プレテスト・ポストテストを比較すると、A評価の生徒が2人から4人に、B評価の生徒は1人から3人に、それぞれ増加した。C1評価の生徒は13人から12人に、D評価の生徒は6人から3人に減少した。C2評価に該当する生徒はいなかった。C1評

価からD評価に下がった生徒が1人いた。ポストテストにおけるA評価4人のうち、1人はプレテストにおいてC1評価、1人はD評価の生徒であった。

プレテストでは、16人の生徒が場面についての情報を聞き取ることができていた。また、問2の解答から12人の生徒が物語の中で登場人物と最も重要な関係をもつ対象を把握していることが分かった。しかし、その関係性を聞き取って記述することができたのは3人にとどまった。ポストテストでは、場面についての情報を聞き取ることができた生徒が19人に増えた。また、登場人物と最も重要な関係をもつ対象を把握することができた生徒は16人に、その関係性を記述できた生徒は7人に増えた。ポストテストにおいて、評価が上がった生徒及びA評価のままであった生徒の記述内容を抜粋し、表3に示す。いずれも、文章に即して、場面を正確にとらえていた。また、複数の場面において、登場人物の言動とその理由についても聞き取ることができていた。これらの生徒は、プレテスト時と比べ、文章を聞きながら取るメモが大きく変容していた。聞き取った内容を時間軸に沿って縦に記入し、情報間のつながりを線で引いて関係性をもたせていた。

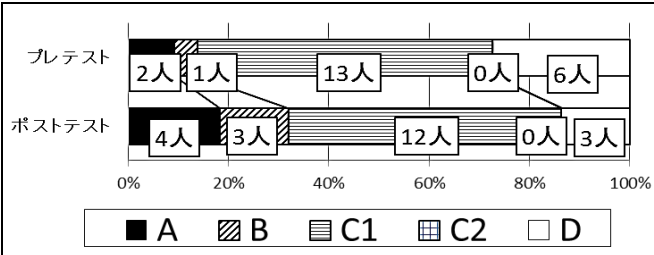


図4 プレテスト・ポストテストの結果

表3 プレテスト・ポストテストの記述例

テスト 評価	プレテスト	ポストテスト
A ↓ A	ある日とてもお腹のすいたネコがいました。そのネコは大きな木の上に5匹の小鳥がいます。そこでネコはよいアイデアを思いつきました。2週間待って食べようとしたら、小鳥たちは見つからず青い空を飛んでいきました。	ある日、とてもおなかのすいたネコがいました。ネコは大きな木の上に鳥の巣があるのを見つけました。その巣の中には5匹の鳥がいました。その鳥は小さな赤ちゃんです。そこでネコはアイデアが浮かびました。食べるのをやめてネコは木をおりてまた2週間後にその木に行きました。ところが5匹の鳥が見つかりません。青い空には5匹の鳥がいました。
C1 ↓ A	ある日、お腹をすかせた一匹の猫がいました。猫は、大きな木の上に鳥の巣を見つけました。鳥の巣には、5羽の小鳥がいました。そこで猫はいいアイデアを思いつきました。	ある日空腹の猫は大きな木の上に鳥の巣を見つけた。巣の中には5匹のひな鳥がいた。猫はそこでよいアイデアを思いついた。2週間後猫は巣の場所に戻ってきたが、巣の中には鳥はいなくなっており、空を5匹の鳥が飛んでいた。
D ↓ A	おなかのすいた猫が小鳥を食べようとした話。	ある日猫が森を歩いていた。猫はとても空腹だった。大きな木で鳥の巣を見つけた。そこに5羽の小鳥がいたがこれでは満腹にならないと思った。そこでネコは2週間待てば大きくなり満腹になると思った。しかし、2週間後に行くと鳥の巣には何もなかった。空を見ると鳥がとんでいた。

プレテスト、ポストテストともにC1評価の生徒のうち、メモを取っている生徒が9人中6人いた。そのうち3人のメモは時間の流れに沿って縦に記入されており、聞き取れた情報間の因果関係を矢印で結ぶなど内容の変容も見られた。

(2) ワークシートによる分析

図5は、研究授業において聞き取った文章の概要をプレテスト・ポストテストと同じ判断基準で分析した結果である。55%の生徒が概要や要点をとらえていると判断できる。

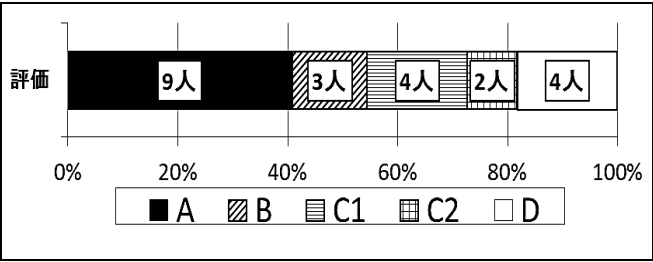


図5 研究授業のワークシートの分析結果

C1評価の生徒は、一つの場面については、絵から背景知識を活性化して得た情報と聞き取った情報とを関係付けることはできていたが、物語の結末を把握できていなかった。C2評価の生徒は、場面を表す情報が概要に記入されていなかった。D評価の生徒は、無記入の生徒1人と登場人物の行動について誤った推測をして、聞き取った情報での修正ができなかった生徒が3人であった。

以上、(1)(2)の結果から、場面をとらえ、登場人物の言動をとらえた概要をまとめることができる生徒が増えたことから、概要や要点をとらえて聞く力はおおむね高まったと考える。

2 背景知識と聞き取った情報との関係性をマップにする活動は文章の概要や要点をとらえて聞く力を高めることに有効であったか。

(1) ワークシートによる分析

表4は、研究授業において、ワークシート上のマップに記入すべき情報を生徒がどのくらい記入できたかを示すグラフである。

A評価の生徒9人は、ほぼ全ての項目の情報が記入されたマップになっていた。B評価の生徒3人は、文章全体を通して、登場人物の言動をとらえていた。C1評価の生徒4人は、登場人物の言動が十分に記入されていなかった。またC2評価の生徒2人は、場面を表す語を記入する欄が未記入になっていた。

表4 ワークシート上のマップに記入すべき情報

ワークシートの 評価		A	B	C1	C2	D	計 (人)
マップに記された情報							
背景知識を活性化して の内容の推測	書けている	9	3	4	2	3	21
	書けていない	0	0	0	0	1	1
場面設定を表す語句	書けている	9	3	4	0	0	16
	書けていない	0	0	0	2	4	6
推測した情報の修正及 び新情報による補足	書けている	9	2	2	0	0	13
	書けていない	0	1	2	2	4	9
登場人物の言動	書けている	9	3	0	2	0	14
	書けていない	0	0	4	0	4	8
情報間の因果関係を示 す矢印	書けている	8	0	0	0	0	8
	書けていない	1	3	4	2	4	14

D評価の生徒は、絵から背景知識を活性化させて内容を推測する段階で、文章の内容とは違う誤った推測を行っていた。

これらのことから、生徒が作成したマップと概要をまとめた文章には、強い相関性があることが明らかになり、マップの有効性が確認できると考える。

(2) 個に焦点を当てて

生徒aは、プレテストとポストテストの評価がDからAに著しく伸びた生徒である。図6に生徒aの研究授業におけるワークシートの一部を示す。

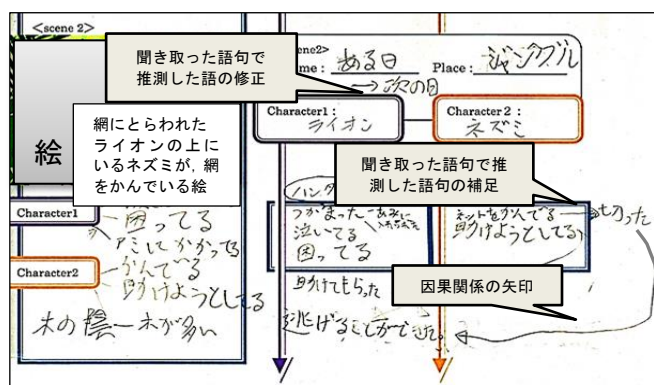


図6 生徒aの作成したマップ（一部抜粋）

生徒aのマップから以下のことが読み取れる。

- ・絵から背景知識を活性化させ、場面と登場人物の状況及び言動を推測して記入している。
- ・聞き取った語句で推測した語を修正している。
- ・聞き取った語句で推測した登場人物の言動を補足している。
- ・登場人物の言動を時間軸に沿って書き込んでいる。
- ・情報間の因果関係の矢印を結んでいる。

生徒aのマップから読み取れること

生徒aは作成したマップから以下の要約文を書いていた。この要約文からは、場面をとらえ登場人物の言動が記されていることが分かる。

次の日、ジャングルでライオンはハンターに捕まった。それをネズミが網を切って助けた。そしてライオンとネズミは友達となった。

生徒aの要約（一部抜粋）

これらのことから、生徒aはマップを作成したことが文章の概要や要点をとらえることに役立ったと考える。

また、生徒aのポストテストにおけるメモが、登場人物の言動を、時間の流れに沿って記入されたものに变化していた。マップを作成したことが、ポストテストでのメモの変容につながり、概要や要点をとらえることにつながったと考える。

(3) アンケートによる分析

図7は、事後アンケートの項目「写真や絵、タイトルから推測した語句を、聞き取った情報と組み合わせてマップにする活動は、物語のおおよその内容を理解するのに役立つ。」に対する結果である。

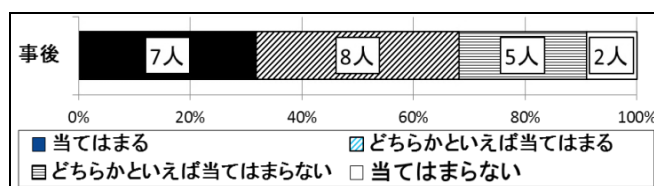


図7 事後アンケートの結果

肯定的な回答をした生徒は全体の68%に当たる15人であり、研究授業、ポストテストでの概要の要約の評価が高い生徒の多くが、事後アンケートにおいて肯定的な回答をしていた。

このことから、背景知識と聞き取った情報との関係性をマップにする活動は有効であるという生徒の意識は高まったと考える。

以上、(1) (2) (3)の結果から、背景知識と聞き取った情報との関係性をマップにする活動は文章の概要や要点をとらえて聞く力を高めることに有効であったと考える。

3 ポストテストで概要や要点をとらえることができなかった生徒について

表5は、プレテストで概要や要点がとらえられなかった生徒のポストテストにおける成績の変容を示している。ポストテストでC1評価であった生徒は、与えられた絵から推測できる登場人物の言動については聞き取れていた。しかし、それ以降の物語の展開については聞き取れていなかった。誤った推測をして概要をまとめたか、概要を記入していないかのいずれかである。プレテストもポストテストもC1評価だった生徒は、記入している文章の情報量にほぼ変化が見られず、概要や要点をとらえる力が高まっていないように見える。しかし、ポストテストでは概要や要点をとらえることができなかった生徒の

うち5人の生徒は、研究授業のワークシートでは、概要や要点を把握することができていた。研究授業では概要や要点が把握できたがその後実施したポストテストではできなかった原因について、指導上の問題点を2つ挙げ、それらについて考察する。

表5 プレテストで概要や要点がとらえられなかった生徒のポストテストにおける成績の変容

プレテスト	ポストテスト	人数
C1	A	1
	B	2
	C1	9
	D	1
D	A	1
	C1	3
	D	2

一つ目の問題点は、提示した絵が表す場面が適切なものであったかという点である。プレテスト・ポストテストでは、物語の最初の場面の絵を2枚提示したが、研究授業では、物語の中盤の重要な出来事を表す絵を提示した。物語の中盤の絵を示すことで、より物語の全体の概要や要点をとらえることができると考えられる。

二つ目は、聴解素材が概要や要点をとらえる活動に適していたかという点である。プレテスト・ポストテストの原稿には場面展開に関わる部分の登場人物の言動が意図的に省略された部分があった。読解素材としては行間を読み取らせる指導が考えられるが、本研究は概要や要点をとらえることをねらいとしている。したがって、結果的に両テストにおいては生徒に省略された部分を推測させた上で概要や要点をまとめさせたことになる。聴解は読解よりも文章の行間を推測することは難しいので、原稿の省略部分を補った聴解素材を準備しておけば、生徒が概要や要点を把握できた可能性がある。

これらのことから、C1評価の生徒に対しては、提示する絵の精選と聴解素材を学習活動に合わせて加工するなどの工夫をすることが、概要や要点をとらえさせるための手立てになると考える。

一方、プレテストもポストテストもD評価だった生徒、C1評価からD評価に下がった生徒は、ポストテストにおいてメモがほとんど取られていなかったことから、文章がほとんど聞き取れないまま絵から推測できる情報だけで概要を書き込んだものと考えられる。したがって、この層の生徒には、事前の音声指導を充実させる必要があると考える。

1 研究の成果

- 文章を聞く前に絵から物語の内容に関する背景知識を活性化し内容の推測をする活動を行ったことで、ほとんどの生徒が絵から適切な推測を導き出すことができた。文章を聞きながらマップ中の情報を関係付ける活動において、推測した語句を聞き取った語句で検証しながら修正したり、補足したりすることができるようになった。そのマップを基に要点をとらえて概要をまとめることができる生徒が増えた。
- 物語の構造が視覚化できるようにワークシートの様式に反映させた。そのことで、物語の概要や要点をとらえる際には、場面をとらえ、登場人物の言動を時間の流れに沿って把握している生徒が増えた。

2 今後の課題

- 生徒の背景知識の活性化を促す目的で絵を加工したが、物語の内容に関して適切な推測が行われるためには、どの場面の絵を提示するのが最も効果的かを研究する必要がある。
- 聴解素材を準備する際には、概要や要点をとらえるために必要な情報が盛り込まれているかを十分精査する必要がある。また、マップ作成時の生徒への指示を工夫する。
- 聞き取った情報をマップに記入することができなかった生徒は、まとめる活動においても要点をとらえて概要をまとめることが十分にできていなかった。文章を聞く前に、文章中で使われる語句について音声から意味に自動的に変換できるくらいまで十分に音声指導をする必要があると考える。

【引用文献】

- 1) 文部科学省（平成22年）：『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』開隆堂 p.14
- 2) 白畑智彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則（2011）：『改訂版英語教育用語辞典』大修館書店 p.32
- 3) 中森誉之（2009）：『学びのための英語学習理論』ひつじ書房 p.197
- 4) 中森誉之（2009）：前掲書 p.197
- 5) 久保田章（2010）：『改訂版新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店 pp.121-122
- 6) 久保田章（2010）：前掲書 p.122
- 7) 中森誉之（2010）：『学びのための英語指導理論』ひつじ書房 p.91

VI 研究の成果と今後の課題